

海老名市立中新田小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第3回)

- 1 日時 令和8年2月27日(金) 10:00~11:30
- 2 場所 海老名市立中新田小学校 生活科室
- 3 出席委員 笠原祐治委員長、打野公一副委員長、鍵渡香代子委員
渡邊富二夫委員、七海勝浩委員
林麻佐美委員、安藤信貴委員、西澤弘毅委員
久保田祐子委員、宮台理恵委員、片岡桂太委員

4 会議の内容

(1) 会長挨拶

笠原会長: 気候変動でも苦勞する時代になった。子どもも苦勞する所だが、体育館のエアコン設置が進んでいる。近隣他市よりも設置率は高い。第三回になったので、来年度に繋がる話し合いになればよいと思う。学校便りを中新田小は月2回電子で配信している。中旬号では各グループが家庭に向けて発信しているのがよい。学校が頑張っている姿が見えてくるのが良い。

(2) 学校長挨拶

打野校長: 最近では体調不良の児童も多い日があるが、進めることができている。成果もあるが課題もあるかと思われる。その点で忌憚のない意見をいただき今後につなげてほしい。

(3) 今年度の学校教育活動及び学校教育アンケートの報告

宮台教頭: 学習理解の点について。およそ9割が学習理解をしていると回答。その背景に朝の15分のモジュールが考えられる。そこで基本的な力を身につけられるよう指導している。思いやりについておよそ9割の児童が当てはまると回答。4月の学力状況調査(6年)でいじめに関する回答「しかたない」がいなくなったと回答。基本的な生活習慣について。児童の95%肯定的な回答。保護者の肯定的な回答は全般的に下がっている。3学期に自転車事故が2件あったので、その点に関しての指導は強化していきたい。SNS、

スマートフォンの使用頻度の高さや影響を考え、学校保健委員会では「デジタル機器利用」と「目に関する指導」を実施した。

タブレットの学習効果について。学習効果が高いと感じる児童は低下してはいるが、考えの共有や自分の思考の表現といった「ツール」として肯定的に考えている児童は増えてきている。地域の人との関わりについて。地域の活動に協力的・意欲的に捉えている児童は多い。

フルインクルーシブ教育について。本校の特徴ではあるが、外国籍の児童の多さが挙げられる。その中で教員の連携により楽しそうに過ごしている姿が見られる。各学年の遠足・校外学習について。実施することが困難になる面も（日程等）あるが各学年実施することには意義があると思い実施を継続。また本校は芸術鑑賞教室を実施。様々な家庭環境もふまえ、生の芸術に触れることが大事であると信じ継続をしている（時数の関係等から実施しない学校も増えている）

鍵渡委員：タブレットについて。時代的にどのように進んでいくのか。紙の教科書は残っていくのかどうか。

打野校長：両方のハイブリットになっていく方向性

鍵渡委員：タブレットの扱いには不安もあるが、今後とも時代を踏まえた上で適切な指導をお願いしたい。

渡邊委員：地域パトロールを中心とした地域づくりを今後も充実させていきたい。交通量が多い所があるので、今後とも協力していきたい。地域のチームで取り組んでいく。

林委員：PTAのポイントが上がっている。その理由について伺いたい。

片岡委員：PTAが楽しく行事等に連携して取り組んでいること、保護者に配付するPTAの案内が丁寧で分かりやすいことが1つの要因であることが考えられる。

宮台教頭：子どもに関わることができる活動や行事が多いこともPTAに肯定的な要因であると思われる。

西澤委員：地域が好きな保護者が多いと思われる。

安藤委員：今の子どもたちはタブレットがない時代を知らない世代。タブレットに関するポイントは素直にそれが反映されているのではないか。直接体験の機会が少なくなっていくことが懸念材料である。バーチャルの体験で「できた気」になってしまっている高校生は少なくない。だからこそ小さい頃の直接体験が大事になってくる。

直接体験だからこそ(植物の世話) 得るものや気づくこともある。

宮台教頭：学校教員も若い世代が増えてきた。そのような大切なことは大人にも伝えていく。

西澤会長：PTA 会員が多いのは良いこと。理由の一つとして「もちっ子」の楽しさが挙げられる。これは是非継続してほしい。本当の餅つき体験は大きくなっても忘れることはない。次の PTA 本部が決まっているのも PTA 活動支持の表れであるといえる。インクルーシブ教育に関しては、外国籍の子と関わることで相互理解が深まると良い。LINE 配信については、一度に複数の内容が配信されると処理が大変で別々であると助かる。

宮台教頭：参加人数増加のため就学時検診のときに「もちっ子」のお知らせを2年前から渡している。その効果が表れているかと思われる。

久保田委員：学校応援団として協力している。PTA 参加の高さが学校応援団参加増加に繋がれば嬉しい。アンケートの「思いやり」の数値が高いのは良いと思う。その背景に道德の効果も大きいと思われる。

七海委員：イベントの参加者(文化祭)が増加。対面の行事が大事である。行事と授業のバランスについて考える面はある。それも踏まえて行事を通じた体験は大事であると考え。その基盤が小学校であるので、今後も中新田小学校でもそのような体験は続けていきたい。

笠原会長：「おもいやり」の項目の数値が増えたのがよいこと。本校の掲示物を見てもそれを強く感じるができる。このような活動を通じて「自己肯定感」が育っていってくれば。また教職員のアンケートの数値も高いこともよい学校をつくっていく上で大事だと思う。

(4) R8 年度学校ランドデザイン案

打野校長：児童指導に対する意識が高い教職員は多いと思う。その一方で地域との連携の数値からは課題も見えてきた。まだできる連携があると思うので模索していきたい。それも踏まえて来年度のランドデザインは「地域連携」を軸としたい。小中連携にも力を入れていきたい。また、子どもだけでなく大人も笑顔になるような学校づくりをしていきたい。

西澤委員：全員が体験できるという点では今後「しょうがい」(肢体不自由等)のある児童に対しても手立てを講じていかなければならない。可能

な限り等しい体験を。

打野校長：えびな支援学校と行っている居住地交流からも学ぶところはある。

(5) 協議「次年度の学校教育にむけて」

これまでの話を踏まえて、校長・教頭より次年度への展望・抱負

宮台教頭：学びグループについて。今年度は子ども視点で校内研を進めてきた。また今後も子ども視点で進めていきたい。

打野校長：「働き方改革」の方向性については、学校だけでなく学校運営協議会でも来年度以降考えていきたいと考えている。

(6) 意見交換

西澤会長：全国的に教員数の少なさが話題になっている。海老名はどうか。

打野校長：少ない状況ではあるが、本校に関してはスタート時の人数は足りている状況であった。

宮台教頭：iPadで授業準備が効率的になった面はある。しかし、子育て世代も多く土日に出勤せざるをえない状況もある。

笠原会長：「ひびきあう教育」について。令和10年に活動報告がある。その様子を地域にも見てほしい。

久保田委員：他にも協力できることがあれば言ってほしい。自分一人でやるものではなく学校応援団というチームで今後も協力していきたい。

(7) 授業参観

打野校長、宮台教頭の案内のもと、各学年の授業参観を行う。授業参観後終了予定時刻となり生活科室にて解散となる。